

ワサビクダアザミウマの発生実態と防除対策の検討

○岩本哲弥

山口県農林総合技術センター

ワサビクダアザミウマは昭和 42 年に島根県で初確認され、昭和 47 年には山口県でも確認された。本害虫が葉や根茎へ加害すると商品価値が低下し、多発生時は株が枯死するため、ワサビの重要害虫となっている。本害虫は水の確保が難しい林間畑での発生が多いため、処理の容易なジメトエート粒剤及びエチルチオメトン・ダイアジノン粒剤で防除されていたが、登録内容の変更と製造中止により使用できなくなった。このため、産地では代替薬剤が強く求められている。そこで、本害虫の発生実態を把握し、新たな系統の薬剤を主体に効果を確認し、有効な防除技術の確立を目指すこととした。

平成 27 年 6 月に山口県岩国市錦町及び周南市鹿野町において、ワサビを栽培している林間畑で本害虫の発生状況を調査した。その結果、前年秋に本害虫の防除を行わなかったほ場では発生及び被害が認められた。秋に防除を行ったほ場では発生を認めなかったが、ほ場周辺の野良生えワサビで発生が見られる場合があった。

平成 27 年 10 月 7～28 日に岩国市錦町の林間畑で青色粘着板と黄色粘着板を地表から約 30 cm の高さに設置し、誘殺の有無を調査した。その結果、本害虫はどの粘着板にも誘殺されず、青色及び黄色への誘引性が低い可能性が示された。

平成 27 年 11 月に岩国市錦町において、本害虫の越冬生虫の侵入経緯を確認するため、定植直後に本害虫が寄生していないことを確認した後、外部からの侵入を防止するナイロンメッシュシート(目合い 95 μ m)でワサビを被覆した区(34 株)と無被覆区(69 株)を設置し、翌年 4 月 5 日に越冬生虫数を計数した。被覆区と無被覆区の発生に差がなかったことから、ほ場内の土壌中に生息していた越冬成虫が発生源と考えられた。

平成 27 年 9 月 4 日～10 月 9 日及び平成 28 年 5 月 12 日～6 月 8 日に岩国市錦町において、効果的な薬剤について検討した。試験区は①シアントラニプロール粒剤(6 kg/10a)、②ダイアジノン粒剤(3 kg/10a)、③アセタミプリド粒剤(6 kg/10a)、④ジメトエート粒剤(6 kg/10a。比較用)、⑥無処理(全て 3 連制)とし、処理直前、処理後 7、14、21、28 日の成虫及び幼虫数を計数した。試験薬剤 3 剤の内、ダイアジノン粒剤については、両年とも防除効果が見られた。しかし、シアントラニプロール粒剤とアセタミプリド粒剤については、各年次で防除効果にばらつきが認められた。その原因としては、食害により、根部の被害が大きい株を使用したため粒剤の成分を十分吸収できなかった等が考えられた。効果の認められた剤については、ワサビにおける本害虫への適用拡大を目指し、作物残留試験等も実施する予定である。

Study on the occurrence actual situation and chemical control of *Liothrips wasabiae* in the field Wasabi

Tetsuhiro Iwamoto

Yamaguchi Prefectural Agriculture & Forestry General Technology Center